

富士紀行（74） 「雲霧の・百景・・・」 芭蕉翁（H13/6/12 記,追記修正
6/16）

須走登山道（東口）の芭蕉句碑について、小生にとっては長い間不明であった（富士紀行19号）が、やっと氷解した。小山町役場の総務課長藤曲氏から頂戴した「ふるさと・おやま見てある記」の42ページに足柄峠近くにあるものと同じ句碑が須走登山道にもあるとの記述を発見した。松尾芭蕉翁の句は、「雲霧の暫時百景を尽しけり」という句だとのことである。同じ句碑が、河口湖畔産尾崎、清水町鉄舟寺、小山町の町道七曲阿多野線原向高尾山横にもあるとのことである。庶務幹部の照井3尉が確認したところ河口湖畔には字は判然とはしないものの芭蕉句碑が間違いなく建立されていた由。尚、河口湖町観光連盟発行の「ぶらり河口湖」の16pに、その旨記載されている。

鉄舟寺と言う言葉に惹かれ、山岡鉄舟に関連があるのかと参考までに調べてみました。大いにありました。鉄舟寺は、もと久能寺と称し久能山山頂にあった寺であるが、武田信玄の駿河侵攻にあつてこの地に移転させられた。明治初期、廃寺同然だった寺を、山岡鉄舟とその有志の手により再興し、名前も鉄舟寺と改めたということである。与謝野晶子の歌「山深き 奥に如意輪おはしまし 桜がちるなる鉄舟寺かな」で有名である。

先日（H13/6/11）、東海道400年祭富士山東口登山道と須走宿実行委員会が纏めた「須走登山道ごあんない」を頂戴したが、その4pに芭蕉句碑の件が記載されていた。以下紹介する。『文政年間（1818～）郷土の俳人蚊牛牛翁が願主となって建立したものである。「雲霧濃 暫時 百景残都くし氣里」「雲霧の 暫時 百景をつくしけり」刻々と変化する富士山の姿が見事に表現されて いる。』と。

さて、芭蕉翁句碑の隣には、富士学校人事課が学校のお守りとして崇敬している雲霧神社がある（富士紀行56号参照）。現存する雲霧神社は、生土地区の氏神であるが、須走登山道の雲霧神社と如何なる関係があるのかも疑問でもあつたし、芭蕉翁の「雲霧の・・・」の句碑が何故登山道にあるのかも疑問であつたが、小山町編纂の「小山町史」の資料編を確認して疑問が解けた。

即ち、『生土地区にある「雲霧神社」は、その地にあつた神武社が1936（昭和11）年社寺統制により失格となつたため、須走浅間神社宮司を宮司とすることなどを条件として、翌1937年東口登山道（須走登山道）にあつた雲霧神社を遷宮・合祀した。』ものなのである。神社を譲り、譲り受ける事があるというのも面白いものだが、地域の人にとっては一大事だろうし、新たな神社を建立することもままならないのだろう。雲霧神社の祭神は、科津彦命、科津姫命、神倭伊波礼毘古命である。

この句を何時、何処で、芭蕉が詠ったものかは不明である。雲霧は雲切りであって、流れる雲の切れ間に見える景観を繋ぎ合わせると全景を尽くす即ち全景が見えるという意味にであろうとの解釈を示してくれたのは、普通科部第一戦術班の平田政司2等陸佐である。アップした後、庶務幹部の照井3尉が、この句について静岡新聞社発行の「ふるさと百話」に記述があることを教えてくれた。『雲霧の暫時百景をつくしけり』も同じく、『野ざらし紀行』の折の作かといわれる（天和3年、甲斐流寓中の作かとも言われるが、疑わしい）。

読んだ地点については、証すべき資料がない。「土峰の讚」と言う前文もなかなかの名文で、雲や霧の晴れ間晴れ間に現れる変幻極まりない富士の美形を讚歎し、「詩人も句をつくさず、才子、文人も言をたち、画工も筆すてわしる」と述べている。』（102p）

以下、平田2佐の研究結果

『遅くなりました。雲霧の調査研究結果です。【句意】富士を仰いでいると雲来たり霧飛び、暫時の間に雲霧と富士とのつくり出すあらゆる眺めをほしいままにすることができたという意。

次の附文が芭蕉句選拾遺（しゅうい）にあるため、このように解釈できるとのこと。

【附文】崑崙は遠く聞。蓬莱・方壺は仙の地也。まのあたり土峰地を抜て蒼天をささえ、日月の為に雲門をひらくかと、むかふ所皆表にして美景千変す。詩人も句をつくさず、才士文人も言をたち、画工も筆を捨てる。若藐姑射の神人有て、其詩をよくせんや、其絵をよくせんや。

※ 崑崙（こんろん）：中国西方にあると考えられた聖山 ※ 蓬莱（ほうらい）・方壺（ほうこ）：渤海の中にあつて神仙が住んでいるという壺形の島山。

※ 藐姑射（はこや）＝藐姑射之山：不老不死の仙人が住むといわれる想像上の山

【時期】天和三年（年）または貞享元年（年）秋と推察される・・・とのこと。

【詠んだと思われる地】定かではないが、甲州と推定する学者あり。

【調査研究所見】雲霧の句だけでは富士山の美景を詠んだという事実はわかりませんが、富士山を展望できる場所に句碑があれば秀峰富士の前に立った時の芭蕉の感慨深さが解かるはずだと思いました。大変、勉強になりました。HPに小生の名前をしかも、ご丁寧に入れて頂き、恐れ入ります。

（平田政司 記）』

参考までに足柄峠付近には、「目にかかる時やことさら五月富士」との芭蕉翁の句碑が建立されている。（前述：みてある記 3p）